


特定非営利活動法人 日本免疫学会
2023 年度 後期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	伊藤雄介	会員番号	0037351	
申請者の所属・職名	慶應義塾大学医学部・専任講師			
出席会議名	The 65 th American Society of Hematology annual meeting and exposition			
発表論文タイトル	Novel Cancer Immunotherapy Using Cell-Derived Membrane Vesicles Orchestrates Multimodal Antitumor Immunity			

実施結果:

この度は、2023 年度後期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award に採択頂き、誠に有難うございます。

本 Travel Award の御支援のもと、2023 年 12 月 9 日から 12 月 12 日に San Diego で開催された American Society of Hematology に参加させて頂きました。本学会は、血液内科の臨床医や研究者が 3,000 以上の演題を発表する血液学関連の世界最大規模の学会です。キメラ抗原受容体搭載 T 細胞 (CAR-T 細胞) 療法や NK 細胞療法に関する話題も豊富であり、自身の研究テーマである腫瘍免疫に関する数多くの口頭・ポスター発表を聴くことが出来、新たな知見を得ることが出来ました。

私は、内在性の T 細胞を活性化させて抗腫瘍活性を賦与する新規の手法に関する演題を口頭発表しました。CD3 抗体と腫瘍抗原に対する抗体を連結した二重特異性 T 細胞誘導 (BiTE) が臨床応用されていますが、CD3 抗体を介した刺激だけでは T 細胞の活性化には不十分であり、その他に共刺激シグナルやサイトカインシグナルなど様々なシグナルを同時に T 細胞に与えることにより、効率よく T 細胞の抗腫瘍効果を誘導することが重要と考えられています。そこで、様々な免疫制御因子を同時に細胞表面に発現させた細胞株を作成し、その細胞膜を粉砕、抽出して直径 100nm 程度の人工膜小胞を作成する手法を確立し、その抗腫瘍効果に関する報告を行いました。発表後は数多くの質問を頂き、英語での discussion の重要性を感じるとともに、今後の研究を進める上で貴重な意見を得ることが出来ました。

ここ数年の国際学会はすべてオンラインで参加しており、約 4 年ぶりの現地参加でした。また、国際学会での口頭発表は初めての経験であり、このような貴重な機会を与えて頂き、誠に有難うございました。岸本忠三先生をはじめ、選考委員、事務局の先生方、また推薦頂きました吉村昭彦先生に心より御礼申し上げます。今回得られた経験を活かし、今後より一層精進を重ね、がん治療の発展に貢献できるよう邁進していく所存です。引き続きご指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。